

なぜ関西弁は人々を魅了するのか？

鈴木 基伸 (すずき・もとのぶ)

こんにちは。総合文化学科の鈴木と申します。今日はどうぞ、よろしくお願いいたします。簡単に自己紹介しますと、私は愛知県豊田市というところの出身です。地元の方は三河弁という言葉になります。有名どころで言うと、徳川家康ですね。徳川家康の出身が愛知県岡崎市と言っています、私の出身地の南に隣接している市ですけれども、徳川家康と同じ方言になります。大学は名古屋に行きまして、名古屋弁にもしばらく、十年以上触れていまして、三年前に縁がありまして、こちら、西宮に来ました。ですので、今日は関西弁についてお話するんですが、関西弁、実は私しゃべれないんですね。ただ一応、解説はできますので。あと、関西人ではない視点から見た関西弁の難しさについてもお話できたらなど。今日お越しの方にお聞きたいんですけども、「私は関西弁をしゃべれません」という方はいらつしゃいますか。お二人。そうですね。それ以外は皆さん、関西弁ですね。関西弁といつてもいろいろあります。大阪の関西弁と神戸の関西弁。それから姫路の関西弁、和歌山、奈良、滋賀の関西弁と全然違いますからね。ちなみに、ご主人はどちらですか。

聴講生…大阪市。

鈴木…大阪。いいですね、大阪。こちらの方はどちらですか。

聴講生…京都。

鈴木…京都。素晴らしいですね。こちらの方は。

聴講生…西宮。

鈴木…西宮。なるほど。今大阪、京都、西宮の方がいらっしやいましたが、それぞれ似ているように全然違う関西弁を話しますね。また大阪の中でも、摂津、河内、和泉で全然違います。

今日のメインになるのは、関西弁のアクセントについてです。あとでこれを使ってやるんですけども、木琴です。弾けないですけど（笑）。なぜ木琴を持ってきたかというところ、関西弁の難しさは、語尾の、「〜ちやう」とか、「〜ですがな」とか、「とても」のことを「めっちゃ」とか言うとか、そういう語彙的なことよりも、アクセントが実は難しいんですね。アクセントとは、音の高さ、低さのことですけども、その音の高さ、低さを、あとで、この木琴を使ってやりたいと思います。また関西弁クイズもあります。これは、ネイティブ、関西弁を話す人でもみんな間違えるんですよ。

では、さっそく始めていきたいと思います。レジュメをご覧ください。今日のテーマ「関西弁はなぜひとびとを魅了するのか」ということですけれども、関西弁は人気があるということは、よろしいですね。テレビをつければ、関西弁を聞かない日はないわけですよ。それはなぜかと言うと、関西弁と言

えば、お笑いですね。テレビと言えば、お笑い芸人なわけですね。お笑い芸人と言うと、地位が低いように聞こえますけれども、今のテレビ業界、マスコミ業界を牛耳っているのは、お笑い芸人と言っても過言ではありません。なぜかと言うと、お笑い芸人は司会をするんですよ。司会をするから、番組を回すことになりまし、参加者全員のことをよく知っておかなくやいけないし、それからひな壇として、司会者の横にいる、立つてガイドとかするという役割の人もいますし、お笑い芸人がいて、アイドルがいて、あと俳優がいる。俳優は、ドラマとかに出ている。じゃあ、バラエティは誰がやるかということ、お笑い芸人なわけですから。お笑い芸人が話したことが流行語になったり、お笑い芸人がしゃべったことがニュースになったりするわけです。なので、お笑い芸人の地位は、実は非常に高いわけですが、そのお笑い芸人の中でも、やっぱり、最も地位の高いのが吉本の芸人なわけです。

吉本芸人が話す関西弁、その関西弁は非常に人気があると言っても過言ではない。また実際、「どんな方言が好きですか」というと、だいたい上位に関西弁がきます。関西弁とか、あと広島弁とか、博多弁も人気です。特に関西の人、私の授業を取っている学生に聞くと、「自分は関西弁をしゃべるので関西弁が好き」ですけども、「それ以外でどんな方言が好きですか」と聞くと、だいたい広島弁か博多弁と言いますね。残念ながら、三河弁とか名古屋弁が好きという人はほとんどいない。悲しいですね。ということでは関西弁は非常に人気があるということですが、では、なぜ関西弁がそこまで人気があるのかを、今日ご説明できたらなと思います。

では具体的にアクセントの話に入る前に、関西弁とはどんなものかを、まずお話ししたいと思います。関西方言が話されているのは、二府四県プラス三重県ですね。京都、大阪、滋賀、奈良、兵庫、和歌山、プラス三重。こういう話をする時に、三重は東海三県と関西の挟間にあるので、非常にかわいそうな土地ですよ。関西弁に近い言葉の話すんですけども、関西の人からは「ちよつと、お前、違うだろう」と言われるし、東海の人からは「関西弁をしゃべっているから、関西の人だよ」と言われてしまいます。一応、三重県も関西弁をしゃべる地域として含めます。

それから、関西弁の地位の変遷ですね。これは、ご存じかもしれませんが、関西弁は上方語とも呼ばれます。上方漫才とか上方落語なんて言ったりしますよね。言葉というのは、実は、上下関係とか、ヒエラルキーというか、強い弱いがあるんですね。世界で一番強い言語と言えば、当然、英語ですね。方言の中にも実は上下関係がありまして、京都、大阪で話されている言葉は上方語と呼ばれ、他の方言にくらべ地位が高かったと言えます。江戸時代の江戸、つまり今の東京では、当時徳川家康率いる三河の武士団が話す三河弁、地元の人が話す関東の方言、それからお公家さんなどが話す上方語が入り混じっていました。その中で、最も地位が高かったのが上方語です。歴史と文化を持つことばが強いんですね、やっぱり。一番上に上方語があつて、その下に三河弁とか、関東の方言というヒエラルキーが形成されていました。

これが明治になって、標準語が設定されます。標準語が設定されるようになると、上方語が一方言になり下がります。代わりに、東京方言、正確には山の手言葉が標準語に設定されます。ですので、江戸

時代は高い威信を誇っていた上方語ですけれども、明治以降には一方言と成り下がり、ある種ステレオタイプ化されました。ステレオタイプ化されたというのは、ある程度のイメージが植えつけられたということです。では、その関西方言にはどんなイメージがあるのかを、レジュメの第二節で見てもらいたいと思います。

皆さん、『パーマン』ってご存じですか。藤子・F・不二雄先生が描いた『パーマン』という漫画があるんですけど、それはアニメーションにもなりました。主人公のパーマンは小学生ですけども、パーマンになれる帽子がありまして、それをかぶると特殊な能力が発揮されて、空を飛べたり、悪いやつを倒したりするんですけど。パーマン、パー子、それからチンパンジーのブービーというキャラがいます。さらにちよつと太つちよのパーヤンというキャラもいます。このパーヤンが実は関西人なんです。パーヤンは、どんな人物かというと、結構、ひどい人物でして、パーマンが怒ってますね。「パーマンのつとめをなんと思ってるのだ。その力は正義を守るためのものだぞ」と言ってるので、たぶん、パーヤンはその力を正義を守るためじゃない目的で使おうと思っただけです。そうすると、「正義はちゃんと守ってるがな。その合間にちよつとアルバイトしとるだけや。正義だけではもうからんよつてな、アハハハ」「いやあねえ」というふうに、パー子から「いやあねえ」と言われています。ここで言うパーヤンのキャラクターは、どんなキャラクターだと思われれますか。

聴講生…お金儲けを……

鈴木…そうですね。お金儲けをしよう。「正義だけではもうからんよってな」って言ってますから、お金儲けをしようとしていますよね。本来の目的ではないことに使っている。それで、パー子に「いやあねえ」と言われていますし、パーマンにも怒られている。

レジュメには、関西弁が、「ある種ステレオタイプ化された」と書いてありますが、関西弁が一方言になり下がった時に、その他の方言と同じ横並びになったのかというと、ちよつと違ひまして、関西弁は関西弁で独特の地位を築きあげました。それは、どういう地位かと言うと、ここに書いてあるんですけども、関西人のキャラクターの特徴があります。関西弁を話すだけで、これはこういうキャラなんだというイメージですね。これは、金水敏先生きんすいせいしという大阪大学の先生がいらつしやるんですけども、この先生がご自身の本の中で、関西人キャラの特徴をいくつか挙げています。そこに書いてありますが、笑わせ好き、おしゃべり好き、お笑い好きということですね。それから、けち、守銭奴。それから食通、食いしん坊。それから、派手好き。そうですね。大阪のおばちゃんと言うと、(胸のあたりを指さし)このへんに動物園にいるようなトラだの、ヒョウだのがいて、ヒョウ柄が好きですからね。それから、好色、下品。ど根性。やくざ、暴力団、こわい。これ、私が言っているんじゃないですよ。金水先生が言っているんですからね(笑)。金水先生が関西人キャラの特徴を分析したところ、こういう特徴が見つかったということです。これは、関西の人を馬鹿にしているとか、実際にそうであるというわけではないんですね。こういうイメージがあるということです。実際に、じゃあ全然違うかというのと、そうでもないわけですから、ある程度、的を射ていると思うんですけども、だからと言って、関西の人が全員おも

しろいとか、関西の人が全員派手かとか、関西の人が全員食通かというわけでは、そうではないんですけれども、相対的にそういう人が多いと。そういう特徴が関西弁を話すことによってキャラ付けがされている。これは、どういうことかと言うと、関西弁をしゃべることによって、そのキャラクターがどういう人間かがわかるということであり、「関西弁を話す」ということが記号化されているということです。この世の中にあるものは、全て記号であるとも言えますが、例えば、矢印ですね。道を歩いていて、目の前にこういう、ここへ来る時にも矢印が描いてありましたけれども、矢印があつたら、そっちに行けということですよ。トイレもこういう絵が描いてあつたら、これは女ではなくて男とか、それから文字も記号です。記号は表すものがあつて、それに意味が付随しています。関西弁を話すことそのものが記号であるというのは、実はすごいことです。関西弁以外でその言葉を話したとしても、どういう人かというのは、わからないわけです。名古屋弁を話したり、岡山弁を話したり、広島弁を話したとしても、その人がどういうパーソナリティを持っているかは伝わりにくいわけです。広島弁は、ちよつと、やぐざかなと、ちよつとこわいかなというイメージはありますけれども、それ以外の方言が意味づけをされているわけではありませんから、この関西弁が記号化されているというのは、それだけ関西弁が必要とされているというか、人気の象徴であると言えます。

さらに、テレビドラマや映画でもそうですけれども、主人公がいます、そのライバルみたいな人がいますよね。主人公は、何弁で話すと思いますか。何でもいいんですけど、ラジオとか、テレビとか、

映画に出てくる主人公は、何弁で話すでしょうか。

聴講生…関西弁。

鈴木…そうですね、たしかに関西弁を話す主人公もいます。しかし、一般的には主人公は標準語で話します。なぜ、標準語で話すと思いますか。

聴講生…みんなにわかるように。

鈴木…そうですね。みんなにわかるようにというのもあります。それから主人公に感情移入できないといけないというのもあります。例えば、貧しい主人公が一生懸命働いて出世していくというドラマがあったとして、その過程に感情移入できなければおもしろくありません。だから、主人公というのがある意味「無色」じゃないといけないんです。ものすごい特殊なキャラが付けがされていたら、それは感情移入できないわけですね。NHKのテレビ小説は、舞台によって関西弁を話したりしますけれども、普通の夜九時、十時にやっているテレビだったら、主人公は、普通は標準語です。ライバル、脇役には関西弁を使う人が結構出てきます。例えば、皆さんは見ないかと思えますけれども、『名探偵コナン』というアニメがあるんですね。コナンは標準語で話すんですね。ところが、コナンのライバルに服部平次という関西弁を話すキャラがいます。それ以外にも、主人公は東京方言だけでも、脇役に関西弁を話すキャラは結構います。では、この脇役の関西弁キャラは何をするかというところ、さっき言ったような特徴が出てくるわけですね。『ドカベン』の岩鬼は、ど根性キャラですね。それから、女好きであったり、パーヤんの正義の味方なのに金儲けが好きとか、そういう主人公の役割が陽やうであったら、関西弁をしゃ



べるライバルは陰えんの役割ですね。陰があつて、陽がある。陽の部分は主人公が担当するんですけども、陰の部分は関西弁キャラが担っている。さつきも言いましたけれども、主人公はある程度、感情移入できなないといけないので、無色透明の標準語を話して、清廉潔白で嘘をつかずに、イケメン・美人で、周りから好かれてという役ですね。それは、ある程度感情移入できるかもしれないかもしれませんが、人間本来の全てを表しているとは言いがたいですよ。誰しもが金儲けしたいと思っっているわけですし、誰しもがいい思いをしたいと思っっているわけですし、誰しもが嘘をついたことがあるわけですし、誰しもが人を妬むことがあるわけですよ。だから、主人公で表せない人間の陰の部分を表す人が、必ず必要になつてくるんです。それを専門用語で「トリックスター」と言います。

レジユメの第三節を見てください。トリックスターは、「原始民族の神話などに登場する、詐術やいたずらで秩序を乱す神話的形象」と書いてあります。神様にちよっかいを出す人みたいなものですね。まさにこれが、トリックスターと言えるんですけども、主人公の周りにいて、主人公が言うことができなない嘘だとか、金に汚い部分だとか、女好きな部分だとか、暴力的な部分を、この人が表すわけですね。陰と陽の部分が合体することで、初めて深みのあるドラマ、映画になるといふことです。ですから、このトリックスターがいなくなつたら、そのドラマはなんにもおもしろくないですね。トリックスターという役割を担う関西人キャラがあつて初めて、ストーリーに深みが出てくると言えます。主人公が言えないことを関西弁キャラが代弁する。そういうところを見て、我々は、胸のすく思いをするわけです。

ということ、これまでの話を一旦まとめると、かつて上方語であつた関西弁は明治になり一方言に

なり下がってしまったんですけれども、その勢力が弱まらずに、ある一定の役割を持ってメディアで登場し続けていると言えます。

では、第四節を見てください。ちょっと、ご協力をお願いしたいと思います。こちらの方はご出身はどちらですか。

聴講生…東京。

鈴木…東京。素晴らしいですね。すみません。私何でも素晴らしいと言う癖がありまして。では、ここに、「うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ」と書いてありますけれども、これを読んでもらっていますか。読むだけいいです。

聴講生…うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ。

鈴木…素晴らしいですね。じゃあ、京都の方ですね。この、「うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ」を。聴講生…うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ。

鈴木…素晴らしいですね。私の目から見えたんですけど、皆さんに見えにくいと思うので、お二人、すぐ、終わりますので前に来てもらっていいですか。皆さん、お二人の口元をよく見ておいてください。口元です。「う」と発音するときに、お二人には決定的に違う部分があります。口元よく見ていただきたいんですが、じゃあ、お願いします。

聴講生（東京）…うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ。

鈴木…じゃあ、お願いします。

聴講生（京都）…うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ。

鈴木…どうですか。わかりました。ちよつと、見えにくかったですかね。もう一回、やってみます。よく見てくださいね。

聴講生（東京）…うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ。

聴講生（京都）…うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ。

鈴木…どうですかね。じゃあ、もう一回。何か違いわかりますか。

聴講生…口が東京のほうは平たくなっている。

鈴木…そうです。これ、全部、音に「ウ」が付く言葉ですけれども、実は日本語の「アイウエオ」は二種類発音の仕方があります。唇を丸めて発音する「ウ」と、唇を丸めないで発音する「ウ」があります。「円唇」と「平唇」と言います。ということ、日本語の「ウ」は、円唇の「ウ」と平唇の「ウ」の二種類があります。関西弁は、「ウ」を唇を丸めて発音します。関東では「ウ」は丸めません。お二人、実は明確にその違いが出ていました。別に、事前に仕込んだわけではありませんよ。もう一回発音してもらっていますか。

聴講生（東京）…うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ。

聴講生（京都）…うどん、うなぎ、うまい、ウクライナ。

鈴木…東京出身のこちらの方は、「ウ」と言う時に、歯が見えているんです。「うどん、うなぎ、うまい、

ウクライナ」。それがこちらの京都の方が発音するときは、歯は見えていません。

このような違いがあります。ありがとうございます。（拍手）これ、どういうことかと言うと、母音の「ウ」を、丁寧に発音しているか、そうじゃないかという違いに換言できるんですね。平唇の「ウ」、これが標準語の「ウ」です。日本語の五母音は、舌の前後の位置と、口の開き具合と、それから唇の丸めからできています。「ウ」と言う時は、舌が口の奥の方に引つ張られているんですね。「イ」は舌が前に出ているように、人間の体はできているんです。前に出したら、広がりますし、引つ張れば丸くなります。なので、「ウ」はちゃんと発音しようとすれば、円唇になるはずなんです。では、なぜ平唇の「ウ」になるのかというと、口の力を抜いているということです。舌は引つ込めているんだけど、唇に力を入れていない。じゃあ、どっちが本来の「ウ」かというと、もちろん円唇の「ウ」です。それが古い日本語の「ウ」の言い方です。丁寧に日本語の「ウ」とも言えます。ですから、関西弁は実は母音を丁寧に発音する言葉なんです。うどん、うなぎ、ウクライナ、ちゃんと円唇で発音します。

それから標準語でよくあるんですけれども、「あぶない」とか「こわい」とか「すごい」を、標準語と言いますか、関東近郊では、「あぶねえ」とか「こええ」とか「すげえ」とか言うことがあります。これも、母音をはつきり発音しないことから生じている現象です。関西弁ではこのような言い方はあまりしません。最近の関西の若者は、「すげえ」とか言ったりしますけれど、基本的にはしなとは言えません。関西弁は標準語というか、関東の方言に比べて母音を丁寧に発音しているということが言えます。

それから、関西では母音を伸ばすという現象があります。目のことを「メー」、手のことを「テー」、歯のことを「ハー」と言ったりします。これも母音を丁寧に発音しているからこそと言えます。ということで、母音を丁寧に発音する関西弁。もっと言うならば、母音を丁寧に発音する話し方は、古い日本語ですね。なので、古い、昔ながらの日本語が未だに残っているのが関西弁ということです。

では、今日のメインテーマに入りたいと思いますが、アクセントのところですね。じゃあ、アクセントについて、簡単にお話しますね。アクセントって、何か聞いたことありますか。

聴講生…音の高低。

鈴木…そうですね。音の高低。例えば、英語のアクセントも高低ですか。

聴講生…強弱。

鈴木…強弱ですね。アクセントは、もともと、強いか弱いかということです。味のアクセントってありますね。味のアクセントをつけるんだったら、塩をちょっと入れるとか、七味入れるとか。それから、洋服にアクセントをつけるんだったら、アクセサリーを付けたら、イヤリングを付けたら、髪飾りを付けたらしますね。音のアクセントも、強さをつけるということですね。例えば、「大手前大学」ってありますね。アメリカ人は、日本人が言うように「大手前大学」とは言えないんですね。「おおてまえだいいかく」と、「ガ」を強く読みます。英語を話す人によって、ことばというのは、どこかに強弱をつけないと気持ち悪いんです。だから、「おおてまえだいいかく」とどこも強く読まない、気持ち悪いと感じてし

まいます。「鈴木」は「すズき」、「豊田」は「とヨた」、「本田」は「ホんだ」、「川崎」は「かわサキ」と読みます。なので、どこかに強い部分と弱い部分をつけるのが、本来のアクセントです。日本語は強弱アクセントではなくて、「高い」か「低い」かで区別するアクセントですね。

ではちよつと「だるまさんがころんだ」を読んでもらっていいですか。ゆっくり発音してください。「だーるーまーさーんーがー」ぐらいです。ちよつと、読んでみてください。

聴講生…だるまさんがころんだ。

鈴木…もつとゆつくり言つてください。だーるーまー、これぐらいで。

聴講生…だるまさんかころんだ。

鈴木…素晴らしいですね。

聴講生…だるまさんかころんだ。

鈴木…ちよつと、アクセントが変わりましたね。

聴講生…だるまさんかころんだ。

鈴木…また、違いますね。変わりましたね。

聴講生…だるまさんかころんだ。

鈴木…はい。

聴講生…だるまさんがころんだ。

鈴木…かわいい感じですね。皆さん、お一人お一人、「だるまさんがころんだ」の言い方が変わってい

ましたけれども、音の高さが変わっていたのは、わかりましたか。どういう音の変化になっているかを説明します。まず、「だるま」からいきましようか。「だるま」、この三文字が、それぞれ高いか低いかにいうことです。高さの組み合わせとしては、高高高なのか、高低低、低高高、低高低、高高低、低低低、低低高、いろいろありますけれども、どれだと思えますか。ではここにある木琴を叩きながら発音してみたいと思います。低い音を「ド」、高い音を「ミ」で叩きます。ちよつとやってみましようか。まず、「高高高」でいきましようか。「だるま」、変ですね。じゃあ、「高高低」にしましようか。「だるま」、違いますね。「高高低」、「だるま」。違いますね。「低高高」でいきましよう。「だるま」。これですね。つまり、だるまさんの「だるま」は「だるま」ですね。ですから、「だるまさんが」は、「だるまさんが」になります。そして、「ころんだ」は、いろいろなバリエーションがあると思いますが、私は、「ころんだ」と「低高高」で発音します。以上をまとめると、「だるまさんがころんだ」は、「だるまさんがころんだ」というように、「低高高高高低高高」となります。このように、文字一つ一つに高低のアクセントをつけるのが日本語のアクセントです。

では実際の関西弁のアクセントはどうなっているのか、ということに入る前に、いくつかクイズをしたいと思います。「たまご」のアクセントはどうなると思いますか。「高高高」なのか、「低高高」なのか、「高高低」なのか、「低高低」なのか、答えはこうなります。「たまご」ですね。（木琴で「ドミド」と叩く）。じゃあ、これはどうですか。「にしのみや」。ゆつくり読むとわかりやすいですね。「にーしーのーみーや」。音の高い低いはいきなり、「やれ」って言われると、わからないかもしれませんけれども。要は、音

の高さ、低さというか、皆さんに声帯つていうのがあるんですけども、ギターの弦みたいなものだと  
思ってください。ギターの弦の高さ、低さは、振動数の違いですね。振動数が少ないと、音つて低く聞  
こえるんです。振動数が多いと高く聞こえます。低い音より高い音のほうが、喉をそれだけ絞っている  
ということです。ですから、「だーるーまーさーんーが」と言う時、「だ」の時は、若干、喉が緩んでいて、  
「るー」の時は、喉が絞まっています。「だーるーまーさーんーが」です。実際、言ってみてもらっていい  
ですか。アクセントとか音声は、実際、発音しないとわからない部分がありますので、喉を意識を集中  
して「だーるーまー」「るーま」から喉がきゅつと絞まります。あと、腹筋にもやや力が入りますから、そ  
の辺を意識しながら、発音してみてください。いきまますよ。私が「だるまさんが」と言ったあとに「はい」  
と言いますので、言ってみてください。だーるーまーさーんーが、はい……

聴講生…だるまさんが……

鈴木…ころんだ。はい。

聴講生…ころんだ。

鈴木…そうですね。わかりましたか。「だーるーまーさーん」「るーまーさん」、絞まっている。絞まっ  
ていると感じたら、高いということです。「にしのみや」ですけど、「にーしーのーみーや」。どうでしょう。  
「だーるーまーさーんーが」と一緒ですね。なので、これも、こうなりますね。「にしのみや」。

あと、おもしろいのが、アクセントは何かと何かがくつつくと、変化するんですね。例えば、「西宮大  
学」なんて大学はありませんけれども、もし作るとしたら。大学のアクセントは、「だいがく」で、こうな



りますね（木琴で「ドミミミ」と叩く。「にしのみや」「だいがく」です。「にしのみや」も「だいがく」も、アクセントパターンは一緒ですね。ところが、この「にしのみや」と「だいがく」を合体させると、なんと、アクセントが変わります。どうなりますか。「にしのみやだいがく」になるんですね（木琴で「ドミミミミドドド」と叩く）。単純にくっつけたら、「にしのみやだいがく」です（木琴で「ドミミミミ」と叩く）。変ですね。「にしのみや」とくっつくことで、「だいがく」が「だいがく」になるんですね。このように、アクセントは単語と単語がくっつくと、アクセントが変わります。

では関西弁のアクセントに入っていきたいと思えます。みなさんに問題です。レジユメの裏面を見てください。ちよつと多いですけども、全部できないかもしれませんが、一から二十七番まで単語が書いてあります。そのの、川、夏、山、耳、船、傘、空、飲む、来る、水、風、鼻、虫、行く、寝る、雨、猿、名前、魚、二人、疲れ、涙、心、雀、ネズミ、うしろ、薬という二十七個ありますが、これらに、音の高低を付けてもらいたいんです。例えば、川。標準語ではなくて、あくまで関西弁のアクセントですよ。じゃあ、ちよつと、読んでもらいたいでしょうかね。「川」は関西弁だと、どう読みますか。

聴講生…カワ。

鈴木：そうですね。「カワ」ですね。「カワ」のアクセントパターンは、どうなりますか。二文字ですから、「高高」か、「低低」か、「高低」か、「低高」かの四種類しかありません。どれでしょうか。ゆつくり言うとうわかりやすですね。

聴講生…高低。

鈴木：そうです。「高低」です。「カワ」です。その1から4までは、同じです。川(カワ)、夏(ナツ)、山(ヤマ)、耳(ミミ)です。すべて、「高低」のアクセントです。では、「カワ、ナツ、ヤマ、ミミ」みたいに、片仮名で書いてあるところに、補助記号を書いていた方がいいんです。高い音の場合は、文字の上に黒丸を書いてください。では時間を五分ほど取りたいと思いますので、その間に関西弁でどういうアクセントになるかを考えてみてください。

(五分後)

はい、じゃあ、答え合わせをしていきたいと思います。最初は「船」からですね。「船、傘、空、飲む、来る」ですが、これはどうでしょうか。じゃあ、読んでもらっていいですか。

聴講生：フネ。

鈴木：はい。フネですね。じゃあ、カサ、ソラ、ノム。

聴講生：カサ、ソラ、ノム、クル。

鈴木：そうですね。「フネ、カサ、ソラ、ノム、クル」ですね。ですから、これらはすべて「低高」のアクセントパターンとなります。標準語だとこれが逆になります。「フネ、カサ、ソラ、ノム、クル」です。「高低」になります。さっきやった「川、夏、山、耳」も、標準語と関西弁では反対になります。では全ての二文字の単語が関西と関東で逆になるのかというと、ちょっと違います。次の「水、風、鼻、虫、行く、寝る」はそのパターンからは外れます。ちょっとこちらの大阪出身の方に、読んでいただいでいいですか。

聴講生…ミズ、カゼ、ハナ、ムシ、イク、ネル。

鈴木…はい、いいですね。こんな感じになります。(木琴で「ミミ」と叩く) これはどういったアクセントパターンでしょうか。

聴講生…水平。

鈴木…そうですね。水平、つまり「高高」です。「ミズ、カゼ、ハナ、ムシ、イク、ネル」です。この「高高」のアクセントパターンですが、私は発音できないんです。なぜかと言うと、このアクセントパターンは標準語にはありません。ですから、東京出身の方は読めないと思います。「ミズ」「カゼ」と読めないんです。標準語のアクセントには、「二文字目と二文字目の音の高さが異ならなければならぬ」というルールがあるんです。ですから、二文字だったら、「高低」か、「低高」でしか読めないんですね。ですから、「ミズ、カゼ、ハナ、ムシ、イク、ネル」と、「低高」でしか読めません。ですから「高高」というアクセントパターンは逆にするとかそういう問題ではないということになります。標準語にはそもそもそのよくなアクセントパターンは存在しないため、変換のしようがありません。

次はもうちょっと難しい問題です。「雨」「猿」と読んでいただいてもいいですか。

聴講生…アメ、サル。

鈴木…ご出身はどちらですか。

聴講生…名古屋です。

鈴木：名古屋。どうりで（笑）。関西弁じゃなかったですもんね。ではこちらの方。ご出身はどちらですか。

聴講生：西宮。

鈴木：西宮ですか。いいですね。ではお願いします。

聴講生：アメ、サル。

鈴木：さすが、西宮ですね。いいですね。ではこちらの方はどうでしょうか。ご出身は。

聴講生：大阪。

鈴木：大阪ですか。最高です。ではお願いします。

聴講生：アメ、サル。

鈴木：素晴らしいですね。私が望んだとおりの発音をしてくださいました。一般的に関西弁では、「雨」「猿」は「アメ」「サル」と「低高」で発音します。ですが、以前は、今の方がおしゃつてくださったんですけれど、「アメエ」「サルウ」というように、二文字目に上がったあと微妙に下がります。もう一回読んでいただきますでしょうか。「サル」をお願いします。

聴講生：サル。

鈴木：はい。「サルウ」というように、「ル」の中で下がっているのがわかります。しかしこのような発音は現在ではほぼ廃れています。伝統的な関西弁のアクセントパターンの一つが、今まさに失われつつあるといってもよいでしょう。

それから、「名前」「魚」です。「ナ・マ・エ」、「サ・カ・ナ」となります。アクセントは「高高高」です。これも、標準語にはないアクセントパターンです。それから「二人」「疲れ」は「フ・タ・リ」「ツ・カ・レ」、となり、「高高低」です。これも標準語にはありません。それから「涙」「心」ですね。「ナ・ミ・ダ」「コ・コロ」となり、「高低低」です。それから、「雀」と「鼠」ですね。ではちょっと読んでみましょうか。じゃあ、京都の方に。お願いします。

聴講生…スズメ、ネズミ。

鈴木…はい、そうですね。ちょっと叩いてみましょう（木琴で「ドドミ」と叩く）。これも、一拍目と二拍目の高さと同じですから、標準語にはありません。東京の人は読めません。「低低高」ですね。最後ですね。「うしろ」、「薬」ですが、「ウ・シ・ロ」、「ク・ス・リ」となり、「低高低」となります。

これまで長々とやってきましたが、何が言いたいかというと、関西弁には、標準語にはないアクセントパターンがいっぱいあるということです。まず、この「サル・ウ」「アメ・エ」といった「二拍目拍内下降」は標準語では起きません。「ミ・ズ」「カ・ゼ」といった「高高」もありませんし、「ナ・マ・エ」「サ・カ・ナ」、といった「高高高」ももちろんありません。さらに、「高高低」の「フ・タ・リ」、「低低高」の「スズメ」といったアクセントパターンもあります。このように、関西弁には標準語にはないアクセントパターンがたくさんあるということです。アクセントパターンが多いということは、どういうこと意味するのでしょうか。これは簡単に言えば真似するのが難しいということになります。言い方を変えると、習得するのが難しいということです。アクセントパターンはある程度の規則があると言えますが、実際にその方言を喋る

うとする際にはすべて暗記する必要があります。暗記するアクセントの数が多ければ多いほど、習得が難しいということになります。つまり、関西弁は習得するのが難しい方言だということです。この難しさ、関西弁の魅力につながってくるわけですから、どうしても、どうしても難しいと魅力が出るのでしょうか。なぜでしょう。なぜだと思いませんか。

聴講生…本人しかしゃべれない。

鈴木…それもありますね。それから、習得が難しいということは、それができている人は、それだけの能力があるということです。つまり、できて簡単なもの、誰でもできて当たり前というのは、できても別にすごいと思われませんよね。例えば、折り紙で、「鶴が折れます」というのは、「へえー」って感じですね。でも「百メートルを十一秒で走れます」と言えば「すごいですねー」となりますよね。それはその時に難しいことができる能力があるから、高い能力があるからということなんです。ですから、難しいことができるといことは、それだけ、その人に能力があると見なされるということです。そしてその能力が「魅力」として感じられるということですね。ですから、「関西弁は真似するのが難しい」↓「その難しい関西弁を話している」↓「素敵」ということですね(笑)。そして、その関西弁を真似しようとする、でもできない、そうするとどうなるか、いわゆる「なんちゃって関西弁」「エセ関西弁」と言われるようになります。その方言に魅力がなければ「なんちゃって」や「エセ」は誕生しないでしょう。

ということ、今回の公開講座の結論としましては、「関西弁は難しい」ということです。なぜ難しいかといえば、アクセントのパターンが豊富で覚えるのが大変だから、ということですね。そしてその難

しさが関西弁を魅力的なものにしていると云えます。ですから、関西弁話者の皆さんは、これからも誇りを持って関西弁を使い続けていってほしいと思います。また、テレビのドラマなどで関西人じゃない俳優が役柄上関西人を演じ、「エセ関西弁」を話しているのを聞いたとしても、決して怒らず、温かい目で見守ってあげてください。彼らが悪いんじゃないんです。関西弁が難しすぎるんです(笑)。本日の公開講座は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

## 「プロフィール」※二〇一六年度現在

大手前大学総合文化学部講師。名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程(文学博士)専門分野は言語学・日本語学。名古屋工業大学国際交流センター(留学生に対する日本語教育)、愛知淑徳大学(日本語学関連授業担当)、ヒューマンアカデミー名古屋駅校(日本語教師養成課程担当)等を経て現職。

《冊文》 「ヤスイ・ニクイの意味決定に関与する名詞句の意味役割」(二〇一四年大手前大学論集)

「困難さを表す『にくい』と『づらい』はどのように使い分けられているか―アンケート結果の考察と分析―」

(二〇一五年大手前大学論集) など